

コロンビア経済情勢（10月）

10月のコロンビア経済概況は以下のとおり。

【ポイント】

- ボニージャ財務公債大臣、2024年2月からの軽油価格引上げを発言。（5日）
- 11～12月の対エクアドル電力輸出を増加予定。（28日）

【本文】

1 主な出来事

〈国内情勢〉

（1）金融政策・物価・雇用関連

ア インフレ率、6か月連続低下（「ラ・レプブリカ」紙、「エル・エスペクタドル」紙、「エル・ヌエボシグロ」紙、7日）

燃料及び食料の価格がインフレ率の下落にブレーキをかけており、利下げにつながらない。9月インフレ率は前月比0.54%減の10.99%（年率）となった。

イ 2023年末のインフレ率、10%を下回る見込み（「ポルタフォリオ」紙、「ラ・レプブリカ」紙、「エル・エスペクタドル」紙、23日）

シンクタンク Fedesarrollo の聞き取り調査（10月）によれば、経済アナリストが2023年末時点のインフレ率を年率9.62%と予測しており、依然として中銀のインフレ目標（2～4%）との差は大きい。他方、2023年第3四半期の経済成長率は中間値が0.5%で、第4四半期は同1.2%と予測された。

（2）財政関連

ア 個人所得税による税収、2022年は19.66兆ペソ（「ラ・レプブリカ」紙、24日）

レジェス国税税関庁（DIAN）長官は、2022年の個人所得税による税収が19.66兆ペソと、予測税収（16兆ペソ）よりも多かったと発表した。また、納税方法は60%がオンライン、40%が認可された銀行窓口での手続であった。オンラインでの納税は、前年比5%増となった。

イ 2023年財政赤字、減少の見込み（「ポルタフォリオ」紙、28日）

財務公債省高官によれば、2023年の財政収支が2024年初頭に発表される。当初予算において財政赤字はGDP比約4.3%であるが、これよりも少なくなる見込み。理由は、債務償還費の縮小によるもの。対ドル為替レートが良好であったことから、ドル建て債務償還費が77.6億ドル縮小した。

（3）鉱業エネルギー関連

ア 2024年2月以降、段階的に軽油価格引上げ（「ポルタフォリオ」紙、「ラ・レプブリカ」紙、「エ

ル・ヌエボシグロ」紙、5日)

ボニージャ財務公債大臣は、コロンビア貨物運搬業者連盟(COLFECAR)の年次総会に出席、運搬業者からの軽油価格の再検討要請に応える形で、2024年2月から軽油価格を引き上げると発言した。軽油価格の引上げ幅は8,000ペソ／ガロンで、18か月～2年の期間で段階的に引き上げる。

イ 仏EDFリニューアブルズ社、太陽光プロジェクトからの撤退(「ポルタフォリオ」紙、5日)

5日、仏資本のエネルギー企業EDFリニューアブルズ・コロンビア社は、クンディナマルカ県ヒラルド市での太陽光発電所建設プロジェクト2件(発電量145メガワット)からの撤退を発表した。撤退理由は、地方政府による環境ライセンス等取得の大幅遅延によるもの。また、税制改革によるプロジェクトの収益性も影響した模様。

ウ 炭化水素庁長官人事(「ラ・レプブリカ」紙、12日)

グアタメ炭化水素庁(ANH)長官が5月に辞任後、空席となっていたANH長官にオランダ・ベランディア氏が就任する。ベランディア氏は、国立教育技術大学地質工学部卒で、弁護士でもある。教育技術大学やエクステルナド大学で教鞭も執った。また、ボヤカ市役所鉱業エネルギー副局長、会計検査院鉱業エネルギー局長などを歴任している。

エ 8月原油生産、日量78万バレルを超える(「ラ・レプブリカ」紙、23日)

8月の原油生産量が日量78万1,904バレルを記録、前年同月比4.31%増となった。生産量が多かったのは、メタ県、次いでカサナレ県。2023年1月～8月の平均生産量は、日量77万5,487バレルとなった。

オ エコペトル社、開発投資20億ドルを削減(「エル・ヌエボシグロ」紙、24日)

エコペトル社労組のロサ組合長は、2024年のエコペトル社の開発投資額が45億ドルから25億ドルに削減されると発言、主要事業の継続性に支障が出る可能性を訴えた。同組合長は、エコペトル社の予算削減を批判するとともに、ペトロ大統領に対応を要請した。

カ ISA社長人事(「エル・エスペクタドル」紙、27日)

配電会社ISA(Interconexion Electrica S.A.。エコペトル社の子会社)は、27日付プレスリリースにて、ポサダ社長の任期を明年1月2日までとすると発表した。同社長は、2022年6月に社長に就任後、エコペトル社グループとして同社の体制強化に尽力した。

キ コロンビア、11～12月に電力の対エクアドル輸出を増加(「ラ・レプブリカ」紙、28日)

エクアドルでの電力不足に対応するため、コロンビアは11～12月の電力輸出を増加する。28日、ボゴタ市にてペトロ大統領とラソ・エクアドル大統領が会談、ペトロ大統領によれば、12月の国内電力需要の増加を勘案し、ダム湖の水量を維持するため、電力輸出は火力発電所より行う。

(4)インフラ関連

ア 5G周波数入札手続の公表(「ポルタフォリオ」紙、20日)

リスカノ情報通信技術大臣が発表した5G技術のコロンビアへの導入に関し、5G技術の国内普及についての要件、手続等を規定した2023年政令第3947号が発出された。情報通信技術省

は、手続で独占が生じないよう周波数帯を設計した。

イ サンクリストバル・ロープウェイ建設計画開始(「ラ・レプブリカ」紙、23日)

23日、ロペス・ボゴタ市長は、サンクリストバル・ケーブルカー建設計画の詳細を発表、この計画により、ボゴタ市南東部に居住する市民40万人超のモビリティが改善されると述べた。総工費は7,790億ペソ超。全長2.8km、10人乗りのゴンドラが144台走行する。予定走行時間は10分。

(5) その他

ア 世銀、2023年のコロンビアの経済成長率を1.5%と予測(「ポルタフォリオ」紙、5日)

世銀は、ラ米・カリブ経済が2023年2%成長すると予測した。前回(4月)の予測(1.4%)から上方修正された。また、2024年2.3%、2025年2.6%と予測。各国の予測成長率は、ブラジル2.6%、コロンビア1.5%、コスタリカ4.2%、ドミニカ(共)3.1%、エクアドル1.3%、エルサルバドル2.8%、グアテマラ3.4%、ホンジュラス3.2%、メキシコ3.2%、ペルー0.8%、ウルグアイ1.5%。一方、アルゼンチンは-2.5%、チリは-0.4%とマイナス成長。

イ IMF、2023年のコロンビアの経済成長率予測を1.4%に上方修正(「エル・ヌエボシグロ」紙、「ラ・レプブリカ」紙、「ポルタフォリオ」紙、10日)

IMFは、モロッコで開催された年次総会で、コロンビアの経済成長率予測を1.4%と発表した。なお、4月時点での予測では1.0%としていた。また、2024年の同予測値も4月時点の1.9%から2.0%に上昇修正している。

ウ 9月の外貨流出、2023年で最高値に(「ラ・レプブリカ」紙、12日)

高インフレ及び高金利の他、外貨流出も国内経済の停滞の理由に挙げられる。ランゲベク・グルポ・ボリバル社経済調査部長は、9月第3週までの外貨流出が9億3,700万米ドルと、2023年で最高値となった旨説明、理由として、米国の経済予測が好調であったことと、インド国債に買いが入ったことを挙げた。

エ 8月製造業生産需要、8.6%減(「ポルタフォリオ」紙、「ラ・レプブリカ」紙、13日)

国内製造業は経済の停滞によりさまざまな困難に直面しており、DANEによれば、現在、自動車産業が最も影響を受けている。8月の製造業に対するアンケート調査では、実質生産額が8.6%減、実質販売額が6.4%減、製造業雇用者数が2.0%減となった。

オ 国家食品薬品監督庁長官人事(「ラ・レプブリカ」紙、29日)

ペトロ大統領は、国家食品薬品監督庁(INVIMA)長官にヘルマン・ベラスケス氏を任命した。同長官職は、1年以上にわたって空席のままであった。ベラスケス長官の任命は、厚生分野における政府の機能不全に対する一連の批判を受けたもの。

〈対外経済関係〉

国際協力関連

(1) イスラエルとの軍事協力(「ポルタフォリオ」紙、21日)

ベラスケス国防大臣は、イスラエルの対コロンビア武器輸出停止が公式なものではないと発言、16日のコーヘン・イスラエル外務大臣の武器輸出停止に関する発言を否定した上で、不足する武器は米国が代替すると述べた。また、ベラスケス国防大臣は、武器輸出契約が終了しても支障がない旨発言したものの、関係者によれば、すでに武器供給に支障がある模様。

(2) 米州開発銀行、5億ドルの融資承認(「ラ・レプブリカ」紙、「エル・エスペクタドル」紙、24日)

24日、米州開発銀行(IDB)は、女性等の公平性及び公正性に関する政策強化のため、5億ドルの融資を承認した。IDBは、「同融資が、女性やLGBTIQ+の公正性に関する諸政策、先住民、アフロ系住民及び移民の格差是正に貢献する」と評価した。また同融資は国家保護システム(Sistema Nacional de Cuidado)を通じた支援により、470万人の児童、62.5万人の高齢者や障害者にも裨益する。

主な経済指標

経済活動指標	2022/08	2023/06	2023/07	2023/08
国内総生産(四半期)(DANE): %	7.8	0.3	—	—
経済活動指数(DANE): %	9.0	1.7	—	—
経済活動指数第1次産業(DANE): %	4.6	3.3	—	—
経済活動指数第2次産業(DANE): %	12.6	−4.3	—	—
経済活動指数第3次産業(DANE): %	9.1	3.1	—	—
エネルギー需要(XM): GWh	6,624	6,581.6	6,764.3	6,963.8
エネルギー需要ー前年同月比(XM): %	3.7	6.0	4.4	7.1
雇用				
全国平均失業率(DANE): %	10.6	9.3	9.6	9.3
主要13都市失業率(DANE): %	10.8	8.8	9.8	9.6
消費				
消費者信頼感指数(FEDESARROLLO): %	−2.4	−14.1	−17.4	−18.8
実質小売売上高指数(DANE): %	8.1	−11.9	−8.2	−10.0
自動車販売台数(単月)(ANDEMOS): 台	24,410	14,435	13,146	14,874
自動車販売台数(年内累計)(ANDEMOS): 台	171,517	90,869	104,015	118,889
物価				
消費者物価上昇率ー前月比(DANE): %	1.02	0.30	0.50	0.70
消費者物価上昇率ー前年同月比(DANE): %	10.84	12.13	11.78	11.43
生産者物価上昇率ー前月比(DANE): %	−1.33	−2.71	−0.74	1.55
ガソリン価格(ボゴタ)(鉱山省): ペソ/ガロン	9,523	12,773	13,373	13,973
生産				
実質工業生産指数(DANE): %	9.1	−4.8	−7.2	−8.6
実質工業売上高指数(DANE): %	7.7	−5.3	−6.0	−6.4
新規建設着工承認面積(DANE): m ²	3,757,992	1,674,876	1,354,532	2,258,373
コーヒー生産量(FNC): 千袋(60Kg)	949	956.0	947.0	872.0
コーヒー生産量ー前年同月比: %	3.7	−9.1	−21.7	−4.7
コーヒー価格(IOC)/ 11月から “SUAVE”: USD	292.52	215.4	190.3	188.7
石油生産量(日量)(鉱山省): バレル	749,299	777,446	781,965	781,904
石油生産量ー前年同月比(鉱山省): %	0.2	12.0	6.9	4.6
石油生産量(日量・年内平均)(鉱山省): バレル	747,916	773,160	774,418	775,354
石油価格WTI: USD / バレル	93.67	70.25	76.07	81.39
金融				
政策金利(中央銀行): %	9.00	13.25	13.25	13.25
為替 月初(中央銀行): COP	4,300.30	4,434.09	4,177.58	3,898.48
為替 月末(中央銀行): COP	4,400.16	4,191.28	3,923.49	4,085.33
為替 最高値(中央銀行): COP	4,413.86	4,434.09	4,195.93	4,144.79
為替 最安値(中央銀行): COP	4,185.49	4,114.39	3,923.49	3,898.48
株式指数 月初(中央銀行): COP	1,272.10	1,117.93	1,134.27	1,178.85
株式指数 月末(中央銀行): COP	1,228.33	1,133.60	1,174.70	1,076.12
株式指数 最高値(中央銀行): COP	1,333.07	1,199.68	1,174.70	1,178.85
株式指数 最安値(中央銀行): COP	1,228.33	1,117.93	1,115.02	1,076.12
貿易				
貿易収支(FOB)(DANE): 百万米ドル	−2,254	−731	−561	−1,061
輸出額(FOB)(DANE): 百万米ドル	4,779	3,986	4,095	3,947
輸出額(FOB)ー前年同月比(DANE): %	37.9	25.3	18.9	13.9
輸出額(FOB)年内累計(DANE): 百万米ドル	39,167	24,616	28,711	32,658
輸入額(CIF)(DANE): 百万米ドル	7,298	5,015	4,945	5,288
輸入額(CIF)ー前年同月比(DANE): %	36.4	1.9	3.0	−1.1
輸入額(CIF)年内累計(DANE): 百万米ドル	52,695	31,821	36,766	42,054
労働者送金(中央銀行): 百万米ドル	769	783	762	888